



広島県支部会報



平成26年3月2日

第60号 いのちを守る「防災体験」～今すべきこと～ ＜広島県南東部地区参加支援＞

日時：H26年3月2日9時50分～13時30分

会場：三原市立第三中学校

主催：三原市防災ネットワーク12団体

支援：日本防災士会広島県南東部地区、三原市南部消防分団、三原市手話協議会

参加者：280人

＜開催目的＞：東日本大震災から3年になる。近い将来、西南日本では次に起こる「南紀トラフ巨大地震」の被害想定が国や県から公表されている。主催者の三原市防災ネットワークでは「南海トラフ巨大地震」への市民の皆さんの認識を高め、備えに早く取り組むため、今回「防災体験」が実施された。

なお、広島県南東部地区の防災士11人が参加支援し、講演、防災展示説明コーナー、写真展示コーナー、防災体験訓練を担当した。



開会の挨拶

＜講演＞

演題：三原市を襲う「南海トラフ巨大地震!」～今すべき備え～

講師：三原地震防災リサーチネット 防災士 桑木光信

講演要旨：「南海トラフ巨大地震」は必ず起こり、西南日本では大きな被害が起こります。三原市も沿岸部は津波が襲ってきます。今までの認識を遥かに超える被害が予想されています。市民の皆さんの防災の備えが心配です。命を守り、家族や地域を守る体制に早く取り組まねばなりません。三原市民として最小限知っておく事、備えておく事、行動すべきことを話した。そのポイントは①東日本大震災の教訓を活かす②「南海トラフ巨大地震」の怖さを知る③三原市を襲う被害内容を知る④三原市のどこが被害が大きく、要因は何なのか？⑤命を守るにはどうすればよいのか？⑥家族や地域を守るため日頃の防災活動の必要性等について話した。

＜緊急地震速報と避難行動訓練＞：

講演終了後、緊急地震速報に対する避難行動訓練を行った。何処でいつ起こるか

分からぬ「巨大地震」、日頃から身を守る判断を意識しておく事が大切である。講演会場で地震速報を聞いたら参加者の皆さんがどのように身を守る行動を起こすか訓練した。日頃から安全意識と即断即決の行動訓練が必要。

<防災体験訓練> :

(1)<初期消火訓練> :

水消火器を使って参加者に操作してもらい、火災発生時に適切な対応が出来る訓練を目指した。

(2)<簡易担架作成と搬送> :

怪我人を安全な場所に搬送することが必要、毛布だけでまた竹竿を利用して、数種の搬送方法を学び訓練した。

(3)<車椅子の安全な避難支援> :

災害時の道路は障害物があり、段差もでき車椅子の進行の障害が多い。付添支援者が協力して障害の少ない車椅子の操作体験を目的とした。

<防災展示説明コーナー> :

(4)<家具の固定・転倒防止法の展示説明> :

震度6強では人は立っておれません。木造建物は揺れで被害が発生、家具や冷蔵庫、TVなど転倒、移動で危険な状態になり、固定、転倒防止金物の装備が必要となる。また窓ガラス、ドアのガラスなどの飛散防止フィルムの貼り付けの必要だ。種々の対策品の展示説明を行った。

(5)<非常持ち出し品、非常食品の展示説明> :

被災生活に最小限必要なものはいつも持ち出し可能な所に備えておかねばならない。個人によって違いますが多くの非常用品の展示説明が行われた。「巨大地震」には3日分では不足で、7日分の備えが必要と言われている。

<非常食品や飲料の展示説明> :

女性防災士の立場から避難生活に必要な非常食品や飲みものの展示説明は女性参加者の関心を高めた。

(6)<液状化模型シミュレーションの実験説明> :

この地域は埋立地が多く、震度6強の地震により液状化被害が懸念されている。液状化がもたらす現象を模型シミュレーションで示し、建物や電柱やマンホールなどの転倒、露出、地盤沈下などの現象を目視、理解でき参加者の関心が高かった。液状化問題の理解に効果あった。

(7)<土砂災害模型シミュレーションの実験説明> :

中山間地域では大雨や地震で山崩れや土砂災害が起り被害が予想されています。土砂災害危険区域は多く、模型シミュレーションで土砂災害の発生メカニズムとシミュレーション実験して、住宅地域やインフラへの被害を分かりやすく説明し、参加者の関心を集めた。

(8) <常時携帯品展示コーナー> :

長年消防団長としての経験から日常生活での常時必要な災害対応備品を車に搭載しているものを展示説明した。

<写真展示コーナー>

(1) <東日本大震災の津波発生の写真展示> :

東日本大地震が襲った津波の及ぼす怖さの写真展示。

(2) <地震の基礎学習と被害写真展示> :

① 日本列島の地震のメカニズム、②地震被害の歴史と今後発生の地震の影響などの写真展示。

(3) <三原市消防本部の災害支援活動の写真展示> :

消防本部が被災現場で支援活動してきた状況写真で、土砂災害、洪水、地震災害など多くの被災地での厳しい活動を示す写真は貴重な展示であった。

<炊き出し体験> :

三原市赤十字奉仕団と地域の参加者による炊き出しが行われ、参加者の炊き出しの実践訓練になった。今回はおにぎりが作られ訓練終了後に参加者に支給された。

<感想> :

国や広島県から「南海トラフ巨大地震」の被害想定が公表された。瀬戸内海に位置する広島県の沿岸部の市町も震度6、津波高さ3.2m以上が襲って来る。被害予想は大変厳しい内容が公表されている。考えてみるほどに危険が大きい。

早く市民が「巨大地震」を認識して家族、地域で防災体制を認識し、備えなければならぬ。そして安全なまちづくりに立ち上がらなければ被害は減少出来ない。

そんな理由や背景から今回の「防災体験」は開催された。

防災体制改革の初年度とも言える。

<参加者の声、評価> : 地震震度6や津波3.2mがこんなに怖いことを知って驚いた。

三原がこんな酷い被害を受けるとは思っていなかった。認識し直す機会となった。

また地域や学校でもっと知らせたい。講演後、体験訓練後の反応が早いと実感した。

(注) : 3月14日午前2時19分伊予灘にてM6.1、最大震度6強(三原市震度4)

が起こった。上記「防災体験」の12日後の事であった。参加者の一層の意識の向上を期待したい。「巨大地震」いつ起きても不思議ではない。

(広報担当 : 桑木光信)



＜講演＞三原市を襲う「南海トラフ巨大地震！」
～今すべき備え～ の様子



＜家具の固定・転倒防止展示説明コーナー＞



＜非常持出品展示説明コーナー＞



＜非常食品・飲料の展示説明コーナー＞



＜常時携帯備品展示説明コーナー＞



＜液状化模型実験説明コーナー＞



<土砂災害の模型実験コーナー>



<三原市消防本部の災害活動の写真展示>



<東日本大震災、津波発生被害写真展示>



<地震の基礎学習と被害想定写真展示>



<初期消火訓練の様子>



<車椅子の安全避難支援の操作説明>

終り